

## 自然と社会とをあわせになるために フェリシモ サステナビリティ活動ニュースレター

### Contents

1. 活動サマリー
2. 最近のトピックス
3. 基金インデックス
4. 活動紹介
5. 推し社員図鑑
6. 参考資料： マンスリートピックス

# 活動サマリー

これまでの取り組みへの参加人数 **729万人**

基金総額 **24億円**

人・自然・動物にまつわる **58**の取り組み

**30年**以上の歴史

誰もがしあわせの創り手となり、贈り手となれる、誰もがしあわせを受け取る人になれる。  
そんな社会を目指し、お客さまが普段のお買い物で楽しく参加できる取り組みをそろえています。

— さまざまな取り組みに生活者が参加 —

フェリシモの森基金

(100円基金のみの算出)

**84,682**人

地球村の基金

**51,867**人

震災復興支援

(阪神淡路大震災、東日本大震災などの合算)

**193,260**人

フェリシモわんにゃん基金

**23,168**人

## 参加者が集まり継続支援ができる理由

- ①充実した基金付商品ラインナップ……ライフスタイルにあわせたお買い物で参加が可能
- ②定期便システム……お客さまと支援先をつなぎ、支援状況が見える マンスリーコミュニケーション
- ③商品企画……コンフォータブル&ファッショナブル×サステナブルの両立は商品にとどまらず梱包資材やカタログ制作にも

## 最近のトピックス

### 楽しいレッスンで学ぶ防災。

### 「家族で学ぶ防災プログラム」が新登場



～必要最小限の備えからステップアップしていく11ヵ月～

【みんなのBOSAI もしもしも】2022年4月26日販売開始

フェリシモが展開する、“おうちレッスン「ミニツク®」”は、レッスンプログラム「もしもミッションをクリアせよ！ 家族で学ぶ防災プログラム」を4月26日よりウェブサイト販売しています。防災に役立つ全11のミッションを家族みんなで楽しくクリアしながら、日常で無理なく「防災」が学べるプログラムです。毎月1つのミッションをこなして災害時に起こりうる事態を想定しつつ、家族みんなで楽しく必要な備えができます。災害大国とも言われている日本で「防災」は身近なものです。意識していても何を準備したらいいのかわからない、「もしも」のときにどう行動すればいいのかわからない、といった不安を回避できることを目指しています。



「初級」「中級」「上級」と、防災に対する知識が少しずつレベルアップできる内容

#### 今後の展望

フェリシモは阪神淡路大震災を経験以降、防災と災害支援に注力。今後「みんなのBOSAI もしもしも」プロジェクトでは、自助と互助の相互補完的な防災システムを構築。上記プログラムのほか、カスタマイズできる防災セットの販売や、みんなで支えるもしものときの防災基金を設立。

### 日本各地から集めた木で作られた10色の「森のクレヨン」が誕生



～着色料は無添加。森とのつながりを感じる木の色～

【モアフェリシモ】2022年4月18日発売

今より“もっと”しあわせな世の中にするアクションやきっかけをともに考え、一步踏み出しやってみる新メディア「more felissimo [モアフェリシモ]」から、日本各地から集めた木で作られた10色のクレヨン「木の色の豊かさをみつける 森のクレヨン」が誕生。着色料は使用せず、製材の切れ端など国内で採れた木材の粉と、米ぬか由来の原料を混ぜた、100%日本の木の色だけで作られたクレヨンです。「木＝茶色」という常識が覆されるカラフルさは、日本の樹木の豊かさそのものを表しています。森林大国でありながら、木が有効活用されていないという現状から、森の豊かさや、森とのつながりを感じてもらいたいという想いから生まれました。



ヤマモモ、カツラ、スギなど日本各地から集めた40種類以上の木から10色を厳選し、製品化

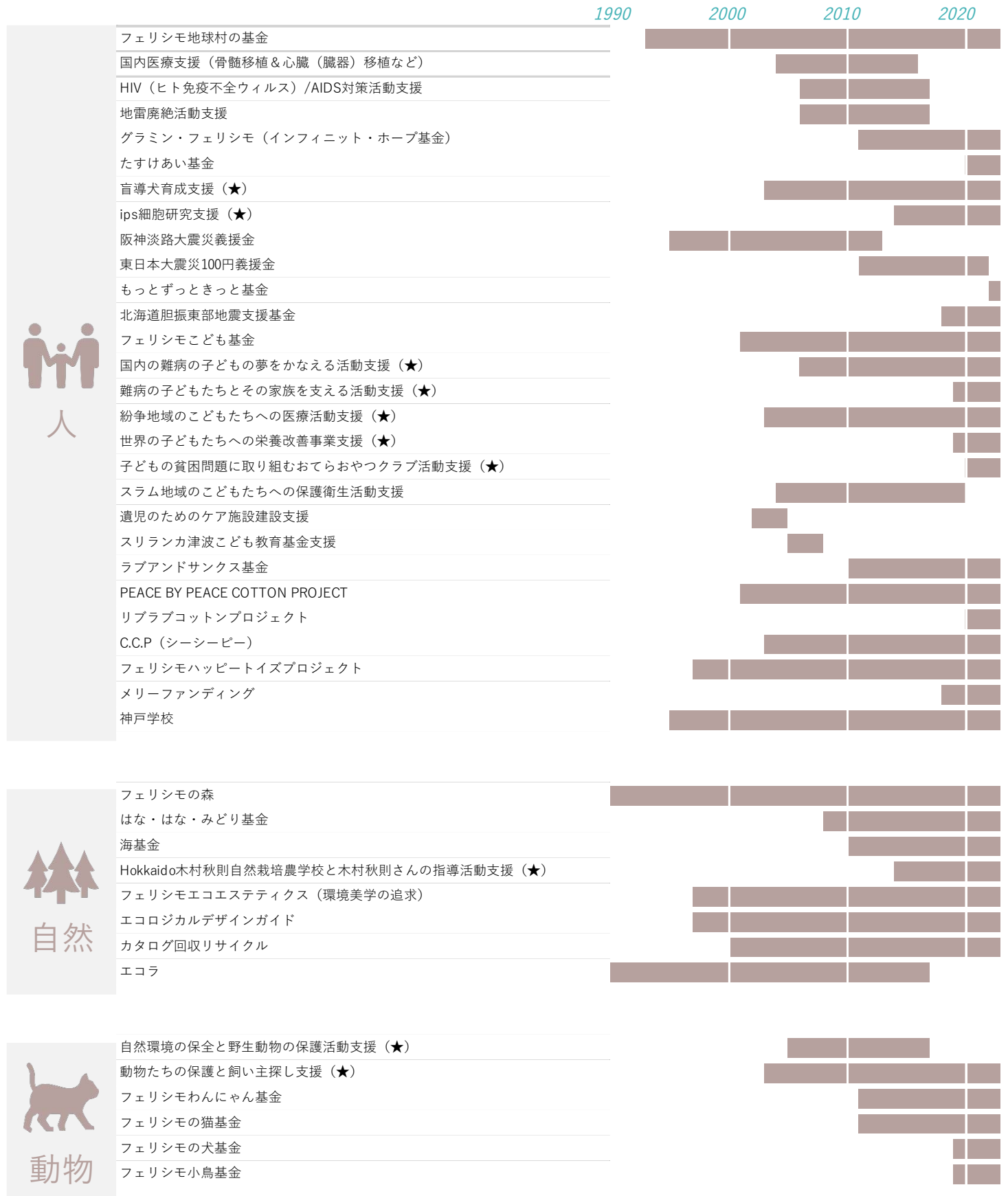
#### 開発秘話

発案者は、遊び心あふれるプロダクトをデザインするクリエイティブユニット・Playfoolさん。彼らのプロトタイプをもとに、よりたくさんの方に手にとっていただけるよう、商品化に取り組みました。販売価格の一部は「フェリシモの森基金」として運用されます。

# 取り組みインデックス

※抜粋版

私たちは想いをともにする人々と「ともにしあわせになるしあわせ」を共創することを通じてしあわせ社会の実現を目指しています。人、自然、動物のこと。事業活動に加えて、基金や環境への取り組みなど、お客さまや社員一人ひとりの思いを大切に、いろいろな課題に向き合う持続可能な活動を継続してきました。



★...フェリシモのお買い物で貯まるメリーポイントのプログラムのひとつとして展開

# 活動紹介

自然・環境

植林

## フェリシモの森プロジェクト (1990～)



国内外**2782**万本を植樹 参加者**400**万人

<https://forest.felissimo.co.jp/onecoinact/>

未来の世代に緑あふれる地球を贈りたい。そんな思いから始まったひと口100円の「フェリシモの森基金」。1990年、「環境問題」という言葉がようやく浸透しかけていた時期※に発足し、国内外42ヵ所約2782万本の植林と森づくりを実現してきました。

インドでは人的伐採によって荒廃した森を植林により復活させ、2006年には、森に象の群れが戻り、マンゴーの収穫が始まり、農家が収入を得られるようになりました。植林を初めてから約20年で、村には森を中心としたコミュニティと仕事が生まれ、生命・生活・生業が循環する社会ができあがりつつあります。環境問題だけにとどまらず、地域の自立や産業としての地域発展につながることまで見据えて活動しています。

※1992年リオデジャネイロで「国連環境開発会議（地球サミット）」開催、1997年に「京都議定書」が採択



### トピックス

1993年から続くインド緑化プロジェクトの支援。2021年度は年間422,725本のマンゴローブ植樹と延べ1,872名の雇用を創出しました。

ダイバーシティ & インクルージョン

障がい者支援

## C.C.P シーシーピー (2003～)



**120**以上の福祉事業所と**300**以上商品化

<https://www.felissimo.co.jp/company/contents/category/sustainability/ccp/>

障がいのある人たちの個性や能力を活かすことですべての人がお互いのちがいを認め合ってつながり、ともに成長していく社会をめざすプロジェクト。これまで、全国120以上の福祉事業所や、NPO・企業・クリエイターなど多数のパートナーと一緒に、300種類以上を商品化してきました。2016年に設立した「チャレンジド応援基金」には多くの方がC.C.P商品のお買いもので参加していただき、1,022,300円（2021年2月現在）の基金が集まりました。基金は地域の福祉事業所の支援活動に拠出しています。C.C.Pに共感してくれるたくさんの人たちとの出会いから、チャレンジドの創造的な可能性をアートの形で社会に発信するファッション雑貨ブランド「ユニカラート」、キャラクターと一緒にこのころのボーダーをなくす「ブルーナバリアフリープロジェクト」、発達障がいのある方の暮らしの困りごとを解決する「スペシャルニーズサポート」のプロジェクトも生まれています。



### トピックス

「2トーンの手づくりガラスチェーンの付け替えができるイヤカフ〈片耳〉」のWEB販売を5月10日から開始。チャレンジドの方たちの細かな手仕事から生まれた2トーンガラスが、光を透かして耳もとで涼やかに輝きます。

# 活動紹介

災害支援

東北支援

## もっとずっときっと基金 (2011～)

累計基金額 ¥423,996,200

フェリシモは阪神淡路大震災を起点に災害支援に取り組み続けています。国内の自然災害を受けた地域の復興をみなさまと一緒に応援していくことと同時に、防災・減災・縮災活動にも活用しています。

「もっとずっときっと基金」は東日本大震災発生以来、月1口¥100からの復興支援を10年間継続しました。女性による東北の産業復興を支援する「とうほくIPPOプロジェクト」をはじめ、東北地域の復興を支援するさまざまなプロジェクトに活用しました。2021年8月現在の参加口数は18,154口（フェリシモ定期便2021年8月分）、と発表しています。現在では支援の対象を東北から全国に拡大して、震災やさまざま災害からの復興にすみやかに対応するとともに、防災・減災などの取り組みも推進しています。



<https://www.felissimo.co.jp/company/contents/category/sustainability/motzutkit/page/4>



### トピックス

「とうほくIPPOプロジェクト」は1期から数えて180件の活動を支援。支援先を拡大した現在も10期にあたる2021年の支援者から続々と活動レポートが届いています。

動物保護

## わんにゃん支援活動 (2011～)

総額4億円以上を動物保護に活用

基金付き商品、月100円寄付をしていただく「フェリシモわんにゃん基金」、メリーポイントによる支援、その他の取り組みでいただいた、動物愛護に関するすべての基金を総称して「わんにゃん支援関連基金」とし、総額4億円以上の基金が動物保護活動の支援に活用されています。「行き場を失ってしまった猫や犬たちを救い、さつ処分をなくしたい」というお客さまの声から生まれたわんにゃん支援活動。猫と人がともにしあわせに暮らせる社会を目指す猫部による基金付き商品の販売や毎月1口100円の「わんにゃん基金」などでお客さまからお預かりした基金を保護活動や里親探し、猫の過剰繁殖防止活動、さらに災害時の動物保護活動にも役立てています。これまで総額4億円以上の基金が64団体の動物保護活動に拠出されています。



<https://www.nekobu.com/merry/>



### トピックス

2022年の猫の日（2月22日）には阪急電鉄×猫部猫車掌さんがかわいく敬礼する「パスケース」や「トートバッグ」などコラボグッズ6点が誕生。



オーガニックコットン

フェアトレード

ファッションレボリューション



## 山崎 友里子

30代 /

オーガニックコットン歴14年

職位・経歴	ファッション事業部 リブ イン コンフォートグループ 企画チーム
専門分野	シューズフィッターの資格を持ち、販売累計100,000足突破※の「フラットシューティアー」を企画。 ※2022年4月末時点
推薦コメント	着心地の良さと高いファッション性、そしてリーズナブルなオーガニックコットンのファッションアイテム作りに10年間以上従事。
備考	閑散期の刺しゅう指導「stitch by stitch project」も実を結び、リブ イン コンフォートの夏の新作には彼女たちの作品をあしらったTシャツが新登場。

## いちばん大切なのは「続けること」

インドのオーガニックコットンを使用した商品1枚につき100円の基金を付けて販売し、栽培農家を支援する「リブ ラブ コットン プロジェクト」。累計基金額は2021年～2022年で11,155,300円に倍増するなど着実に支援の輪を広げている。

—— プロジェクト開始当初はコスト面や生活者への理解浸透に苦戦

**山崎：** 綿花を栽培している土壌、ひいては地球や生産者にやさしいオーガニックコットン。買い手にとってのメリットが見えづらく、コスト面との兼ね合いに苦労したことも。それでもオーガニックコットン栽培により健康被害が減ったり、やせた土地に緑が戻ってきたり、集まった基金で現地に学校が建てて子どもたちが通えるようになったり……ということを支援先から直接聞き、自分ごとのように感じているので、大変でもやめてはならぬ……という気持ちです。オーガニック農法への転換は3年かかりますし、続けないと意味がないのです。

—— 支援地域の女性たちへ、閑散期の収入源となる刺繍技術のレクチャーも実施

**山崎：** 7年前から現地女性の収入向上のために「stitch by stitch project」という閑散期の刺しゅう指導を開始しました。商品化にあたっては、毎回おおよそ20名ほど、10代～30歳ぐらいまでの女性たちが2,000枚～3,000枚を半年ほどかけて仕上げてくださいました。日本から送ったパーツが半年経っても届かなかったり、お願いしていた色と微妙に違って仕上がってきたり、納期への意識がうまく伝わらなかったりと苦労も多々ありました。ただ刺しゅうには危ない作業が発生しませんし、手に職がつけられたことでメンタル的に自信を付けられたという声を聞いて手ごたえを感じています。

—— 支援先と繋がりながら、必要な支援をヒアリング

**山崎：** インドの女性たちとオンラインでつながって直接お話しして、彼女たちのことをより身近に感じています。この1年は新型コロナウイルス対策やジェンダー研修も実施しました。オーガニックコットンの栽培支援にとどまらず、村に対してどういった支援を行なっていくのか、時間をかけて計画しています。できるだけ顔の見える支援にして、思いを寄せてくださるみなさまに愛着を持っていただけるようこれからも活動していきます。



### ご取材いただけるポイント

・現地とのオンライン会議の様子



・企画会議、サンプルチェックなどの裏側潜入

伝統産業

クールジャパン



## 山根 雄作

40代 / 日本製の整体師

職位・経歴	日本職人プロジェクト プロジェクトリーダー
専門分野	アートディレクターやプランナーなど様々な顔を持ち、過去にはシリーズ累計280万個以上の販売実績を持つ服型ペットボトルホルダー「ミュニデ®」を手掛けた
推薦コメント	未来に残すべきモノづくりを応援する「日本職人プロジェクト」に17年携わり、職人の方々が前向きに取り組めるモノづくりの場を提供
備考	10年前より絵画を学び、個展開催など活動の場を広げている

## 日本の職人とともに、立ち話から新しい“日本製”をつくる。

大量生産の商品が溢れる時代に逆行し、職人とともに誰かの想いや憧れが込み込んだ「物語」をかたちにしていく「日本職人プロジェクト」。そのストーリーに多くの人が共感し、年4回の新作発表のたびに予定数量を大幅に超える受注を受ける。

——「日本のものづくりはこれからどうなっていくんだろう？」という疑問から企画がスタートして17年

**山根：**入社してから3~4年の頃、アジアの工場に依頼して大量生産するのがあたりまえのビジネスモデルを目の当たりにし、「日本のものづくりはこれからどうなっていくんだろう？」という疑問がわいてきたんです。鞆の産地である兵庫県豊岡市の工場では話を聞くと、職人さんの仕事は海外で作られた縫製品の最終仕上げなどがメインとなっていて満足している感じがなくて。そこから自分がずっと大切にできるもので、数万円出しても買いたいと思えるものを日本製で作ろうと企画をスタートさせました。

——誰かのものへの想い入れや記憶をかたちに

“人となり”が“ものとなり”になっているんだなと感じられるモノは多くの共感と反響を呼びます。たとえば販売開始後すぐに完売してしまった「小田原のガラス職人が作ったオーロラが溶け込んだ宙吹きグラス」は、「いつかガラス職人だけで食べていきたい」という想いを抱き続けた職人さんがトラックの運転手をしながら軌道に乗るまでのエピソードに我々もグッときて。お客さまにも「物語」の断片をできるだけ多く共有するために、あえてたくさんの情報に触れていただけるようにしています。職人さんのところへ行く道中でなにを食べた、一度企画がストップしたけどまた始まったなど、企画の境界にあるあれこれを見せることで、本当の「物語」を伝えたいという気持ちがあります。

——大量生産とは逆行するような新しい価値をつくっていくこと

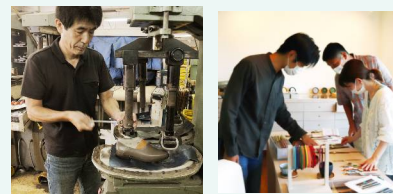
**山根：**“伝統を受け継ぐ”とか“高品質を維持する”というこだわりだけが日本製ではなく、誰かのリアルな想いや憧れを職人さんのモノづくりの起点にしていただくことが私のチャレンジです。そこまで持つていくのは大変だけど、数年かけてやっと完成した商品がヒットすると職人さんも「このやり方でいいんだ！」と納得して、次はもっとモチベーション高く商品が作れるようになる。これからもそうやってものづくりを行う人たちとたくさん出会い、「物語」のあるものをつくり続けていきたいです。



プロジェクトの原点となった山根の父の物語を形にしたダレスバッグ（上）と溜塗（ためぬり）の文字盤が美しい時計（下）

### ご取材いただけるポイント

・日本各地に赴き、職人と打ち合わせしているところ



・企画会議、サンプルチェックなどの裏側潜入

・企画会議、サンプルチェックなどの裏側  
 ・カタログ撮影の様子



## 動物保護



**小木 のり子**

30代 / 猫部部长

職位・経歴	生活雑貨事業部猫部グループ兼キャラクターグループ
専門分野	猫部、キャラクターチームの商品企画
推薦コメント	社内の猫好き6人が集まって2010年に結成したフェリシモ「猫部™」。これまでの動物保護に関する基金拠出総額は <b>5億円以上</b> ※に及ぶ。※2003年6月～2022年2月 複数の基金による合算
備考	猫の殺処分数は2015年～2020年で67,000頭から19,000頭へと大幅に減少※。2022年より「AIM医学研究支援基金」をスタートし、猫の腎臓病治療への研究も支援 ※環境省統計資料「犬・猫の引取り及び負傷動物等の取容並びに処分の状況」より

## お買い物で楽しく「猫助け」！

「猫と人がともにしあわせに暮らせる社会をつくる」をミッションに、2010年から活動している猫部。社内外の猫好きさんとともに商品開発を行い、発足以降、数々のヒット商品を生み出し続けている。

—— 隣の席の同僚に意見を聞くくらいの感覚で、お客さまに聞いてみるというのが猫部の文化

**小木：**商品開発の際は猫好きで猫思いのお客さまのリアルな声を聞くというスタンスをとり続けています。SNSなどを通して「どちらの色がかわいい？」というライトなことから、商品仕様などの込み入ったことまで問いかけています。猫の魅力をお客さまに問いかけて出てきた「もふもふ感」や「プニプニ感」というキーワードから「もふもふ猫足ルームソックス」や「プニプニ肉球の香りハンドクリーム」が生まれました。

—— 私たちができることとして、基金付きの猫グッズを販売

**小木：**創部当初、年間約20万匹の犬猫がさつ処分されていることに部員たちは心を痛めていて「動物がさつ処分される状況を企業としてなんとかしたい」という思いから活動を続けてきました。そこで、猫部で販売している商品には全て基金を付けて、上代の約3%（商品によって異なる）が動物愛護の支援活動に拠出される仕組みになっています。

—— さつ処分がゼロになるその日まで活動を続けていく

**小木：**お預かりした基金は、全国の約65※の動物愛護団体へ拠出しています。寄付金の使い道は主に4つ。飼い主のいない動物の保護と里親探し、保護した動物のフード代や医療費、野良猫のTNR活動、そして災害時の動物の救護活動です。基金による団体支援に加えて2019年からは、地域猫活動のことをより知っていただくため「猫の日チャリティーTシャツ」の販売も実施。毎年猫好きの著名な方々にご協力いただいて、耳先をVカットした地域猫をテーマにしたデザインのTシャツが生み出されています。NPO、企業、行政と獣医師会が一体となって地域猫の課題解決に取り組む「神戸市人と猫との共生推進協議会」のメンバーとしても活動しており、さつ処分される猫がゼロになるその日まで、猫好きのみなさまとともに続けていきたいと思っています。

※2022年現在

▶推し社員たちのさまざまな活動をウェブで公開中

<https://www.felissimo.co.jp/company/contents/category/sustainability/with/>



## ご取材いただけるポイント

・商品企画の裏側潜入



▲毎週水曜日13:00～14:00に企画会議を実施。間もなく2023年猫の日（2月22日）企画がキックオフする

・オフィスでの譲渡会開催風景



▲2012年9月より、オフィスでの譲渡会を地元の保護団体と共同で開催。2021年8月までで567匹の猫がマッチングした実績がある。今後はコロナ前以上の毎月へと開催頻度を上げることを検討中。企業のオフィスの貸し出しは珍しいという。

# 参考資料： マンスリートピックス

## 2月 バレンタインデー (14日)

チョコレートの裏側に隠れた「社会問題」。原料となるカカオを生産する途上国での深刻な児童労働の削減に取り組んでいます。これまでガーナでは550人以上の子どもを児童労働から救い、約4,500人の子どもの教育を支援してきました。

◆ 関連する取り組み…LOVE&THANKS基金

### <現場レポート>

ガーナにおいても、コロナ禍における影響は甚大でカカオ農家や子どもたちの生活に大きな影響を与えています。青空市場への人流が大幅に制限されると、多くの農家は現金を獲得する手段を失い、経済的に困窮した家庭では子どもたちが児童労働に戻ってしまう事態も……/認定NPO法人 ACE



## 3月 国際女性デー (8日)

フェリシモは経営理念である「しあわせ社会学の確立と実践」の一環として、従業員のワークライフバランスについて配慮がなされています。誰もが働きやすい会社を目指し、産休取得後の復職率と男女育児休業率はほぼ100%、女性管理職の割合も日本の平均8.9%を大きく上回る32%です。年齢問わず、女性の偶数年齢の乳がん検診も会社が負担しています。

## 5月 子どもの日 (5日)

すべての子どもが、健やかに育ち、安心して「子ども時代」を過ごせるように。子どもに関する国内外の様々な支援を行っています。

◆ 関連する取り組み…おてらおやつクラブ支援、たすけあい基金、フェリシモ ハッピートイズプロジェクト、こどもフェリシモほか

### <支援先の声>

コロナ禍で事務局に届く「助けて」の声は、前年と比べて2020年度は4.9倍に急増。当団体が支援をしている世帯数も1,720世帯（2021年3月末時点）になり、日々その深刻さは増しています。当団体の支援を通して、「ひとりじゃない、頼れる場所がある」、「また明日からがんばろう」といったポジティブな心理的変化に寄与できていることを実感しています。/特定非営利活動法人おてらおやつクラブ

# 参考資料： マンスリートピックス

## 8月 クールビズ

地球温暖化を食い止めるためにはエアコンは使わない方が良いけれど、熱中症になれば誰かの命に関わること。フェリシモではサステナブルな環境への取り組みを実施しています。ペーパーレス化、電気エネルギーの削減に加えて暑さの厳しい6~9月の一定期間限定で、環境配慮（省エネ）と体調管理の両立のために男性のハーフパンツの着用が認められています。



## 9月 台風と防災の日（1日）

毎年のように起きる「史上最大級」の自然災害。災害を受けた地域の復興支援と普段からの防災啓蒙をどちらも行っています。

◆ 関連する取り組み…もしもしも防災プロジェクト、もっとずっときつと基金など

## 11月 ブラックフライデー

日本では1年間に約29億着の衣服が供給され実に半分の約15億着が売れ残っているといわれています。売れ残った服は「ブランド価値を保つために廃棄処分になる」というのです。フェリシモは商品サービスにとどまらず、毎月お客さまにお届けするカタログでサステナブルなライフスタイルを提案。アクションカタログ「more felissimo」で「つかいきる」ことを提案したり、生地や黒染めのファッションアイテムを企画したりと、社員ひとりひとりの想いから取り組みを実現しています。

column

## フェリシモ広報担当者のイチオシカタログ

「したことないことやってみよう！」をコンセプトに、今より“もっと”しあわせな世の中にするアクションやきっかけをとともに考え、一歩踏み出しやってみるきっかけメディア「more felissimo [モアフェリシモ]」を2021年にスタート。goodなアクションを重ねていけば、自分はもちろん、家族の、地域の、社会の、そして地球全体のgoodに近づいていくはず……！日々を豊かにする商品を様々提案してきたフェリシモが、カタログやウェブサイトを通じてアクションを発信するこれまでとは違うしあわせの種まきです。



河島春佳さんに教わる「お花のつかいきり方」



「服を黒く染めてつかいきるって、どういうこと？」

# 企業情報

## 株式会社フェリシモ

### ・英語名

FELISSIMO CORPORATION

### ・創立

1965年5月

(現・株式会社フェリシモは2002年8月に分割設立)

### ・本社所在地

〒650-0041

神戸市中央区新港町7番1号 Stage Felissimo

### ・事業所

>> エスパスフェリシモ

〒654-0161

神戸市須磨区弥栄台2-7

>> 東京オフィス

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前1-11-11

### ・代表者

代表取締役社長 矢崎和彦

### ・連結従業員数

連結従業員数 745名 (2022年2月末現在)

### ・事業内容

ダイレクトマーケティング事業

### ・ウェブサイト

<https://www.felissimo.co.jp/>